

環境影響評価準備書(案)について

準備書の構成（環境影響評価法第14条第1項、国交省令第33条 等）

1.都市計画対象道路事業の名称

2.都市計画決定権者の名称

3.都市計画対象道路事業の目的及び内容（事業特性）

4.都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲の概況
（地域特性）

5.計画段階環境配慮書における調査、予測及び評価の結果

6.計画段階環境配慮書についての
国土交通省大臣意見と都市計画決定権者の見解

7.計画段階環境配慮書の案又は配慮書についての
意見と見解

8.方法書について意見を有する者の意見の概要
及びそれに対する都市計画決定権者の見解

9.方法書についての知事意見及びそれに対する
都市計画決定権者の見解

10. 都市計画対象道路事業に係る環境影響評価の項目
並びに調査、予測及び評価の手法

11.環境影響評価の結果
（調査・予測及び評価結果、環境保全措置）

12.事後調査

13.環境影響評価の総合的な評価

14.環境影響評価の委託先

浜松湖西豊橋道路（愛知県区間）

環境影響評価準備書
(案)

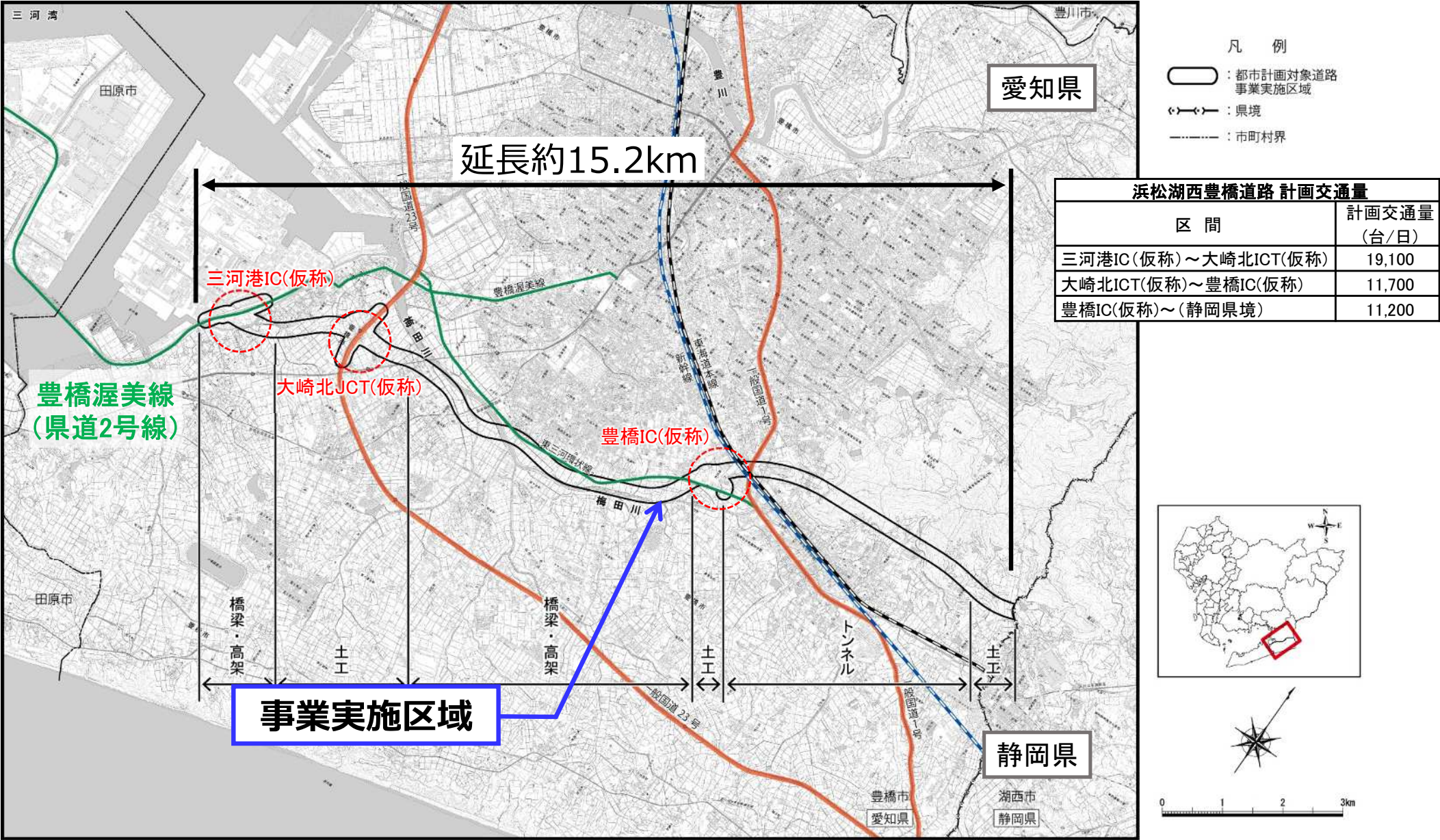
令和 年 月

愛 知 県

事業の名称		浜松湖西豊橋道路
都市計画決定権者の名称	愛知県	
	代表者の氏名	愛知県知事 大村 秀章
	住 所	愛知県名古屋市 中区三の丸三丁目1番2号
事業の種類		高速自動車国道の新設 または 一般国道（自動車専用道路）の新設
事業実施区域の位置		起点：静岡県と愛知県の県境 終点：愛知県豊橋市
		位 置：次ページのとおり
事業の規模		延 長：約15.2km
道路の車線の数		4車線
道路の設計速度		80km/h
その他	道路区分（種級）	第1種第3級（自動車専用道路）
	構造の概要	地表式、嵩上式、地下式
	IC・JCTの設置	計画有り
	休憩施設の設置	計画無し

○事業実施区域：当該事業により土地の形状の変更並びに工作物の新設及び増設が想定される概ねの範囲であり、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置が想定される概ねの範囲を含む区域

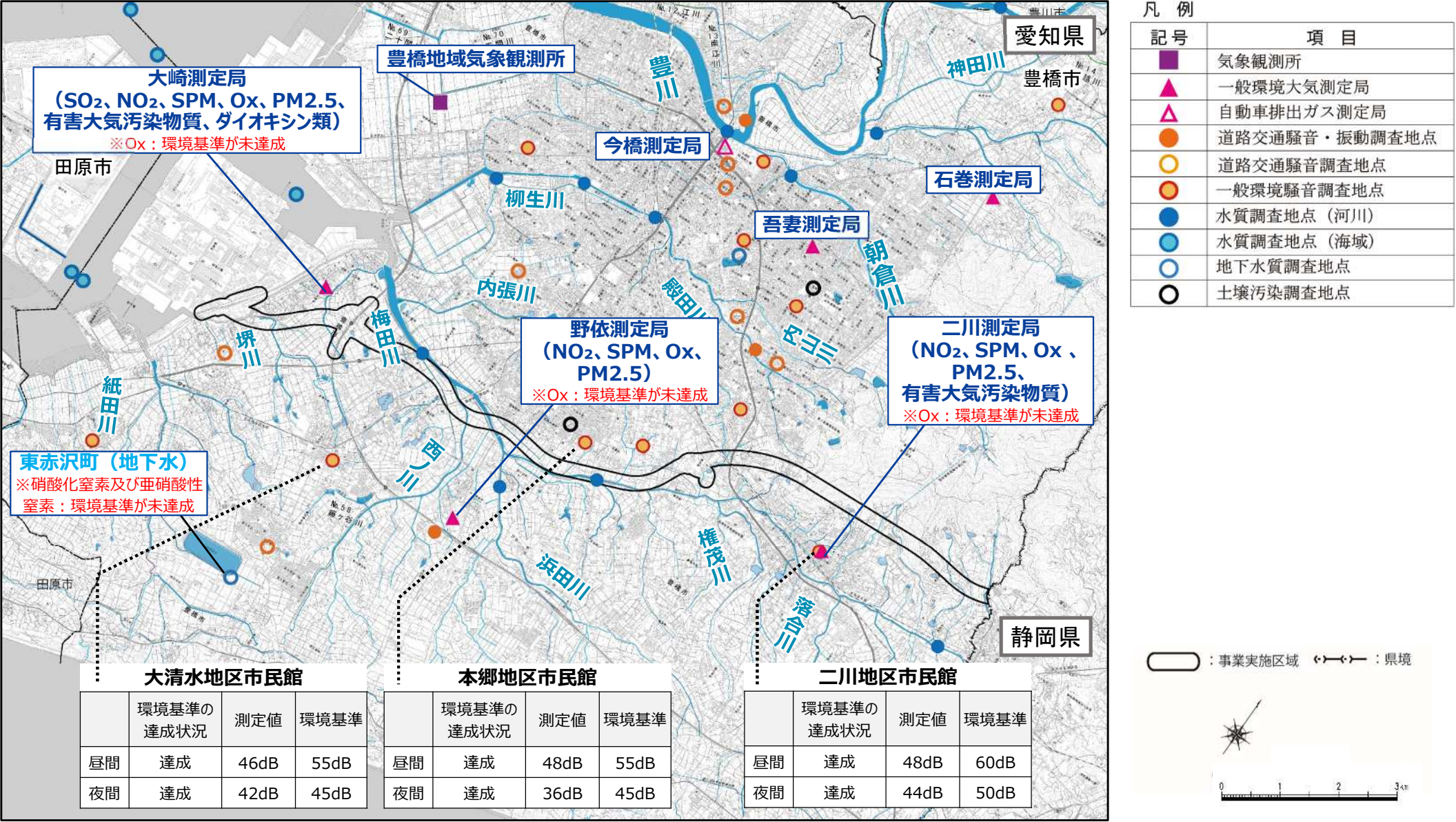
※ 地域特性の把握は、原則として事業実施区域及びその周囲（以下、調査区域）【片側約3km】で実施



1. 自然的状況〔生活環境（気象・大気質・騒音・振動・水象・水質・地下水質・土壌汚染）〕

○方法書から、観測所等の測定結果を最新のデータに更新しておりますが、内容に大きな変更はありません。

○既往調査では、光化学オキシダント、地下水質を除き、環境基準、要請限度、指針値を達成しています。



愛知県

豊橋市

田原市

境川河口

大崎イチョウ (お葉つきイチョウ)

ベッコウトンボ

アオヤンマ

ベニイトンボ

岩屋観音・火打坂

岩屋緑地

岩屋観音

岩屋緑地公園展望台

ヤハズヌマガイ

広大な畑地

ハッコウトンボ, ヒメタイコウチ, ヒメヒカゲ, ウラナミジャノメ

静岡県

凡例

記号	項目
□□□□	軟弱地盤
●	重要な地形及び地質
●	重要な動物
■	特定植物群落
●	巨樹巨木林
●	天然記念物 (植物)
■	眺望点
■	景観資源
■	人と自然との触れ合いの活動の場

事業実施区域

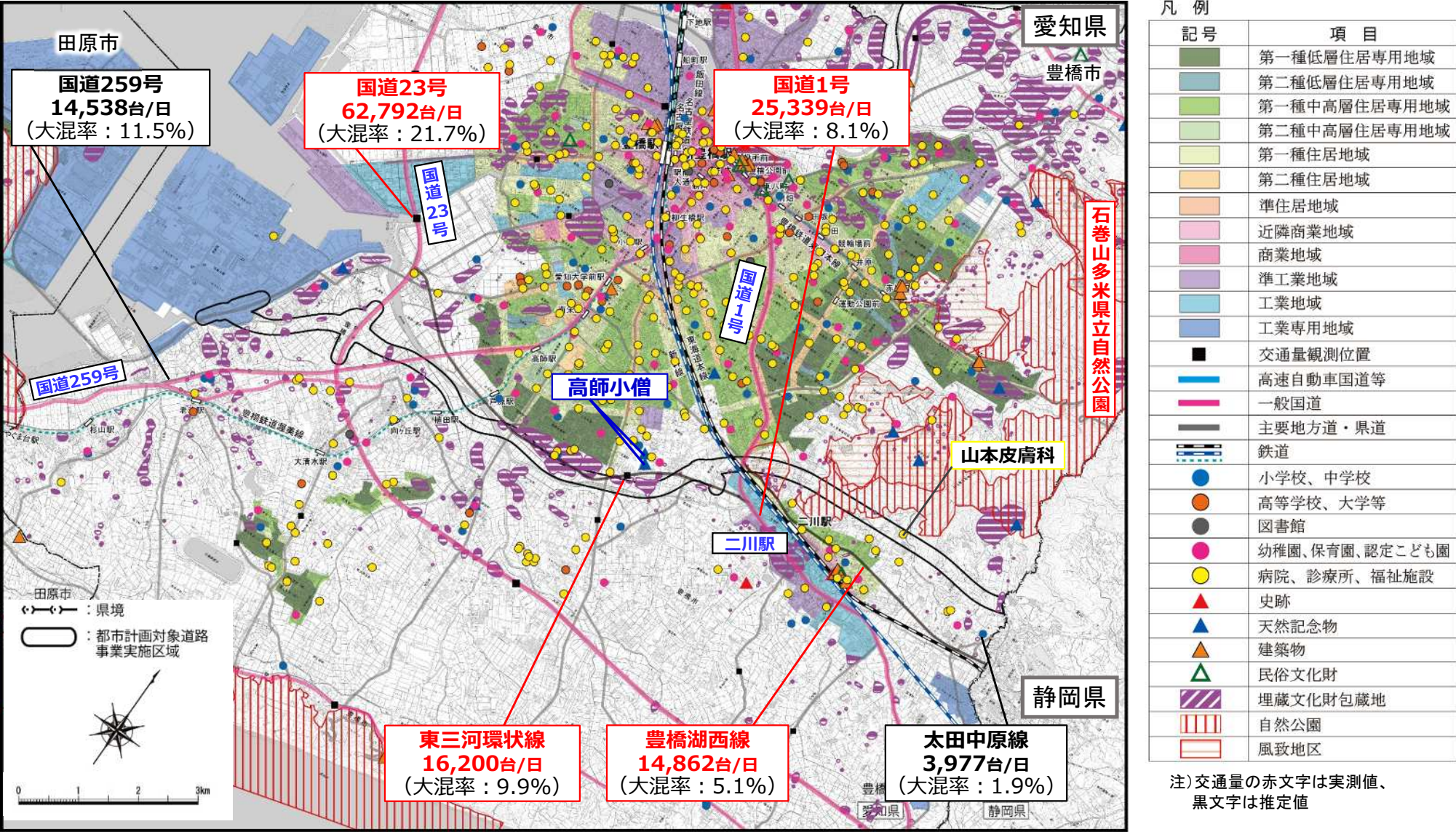
県境

0 1 2 3 km

2. 社会的状況〔用途地域、交通の状況、文化財、環境の保全についての配慮が特に必要な施設〕

○方法書から、最新資料によるデータに更新しておりますが、内容に大きな変更はありません。

○実施区域には、二川駅周辺に用途地域、風致地区、一般国道1号、JR新幹線、多くの病院等が存在するほか、天然記念物（地質）「高師小僧」、埋蔵文化財包蔵地、石巻山多米県立自然公園が存在します。



○環境影響評価の項目は、**国土交通省令に基づき、愛知県の環境影響評価指針**を参考として、事業特性及び地域特性を踏まえて選
定しました。
○方法書に対する愛知県知事意見、住民意見を踏まえ、**方法書から項目の追加削除等の変更はありません**。
○本日の審議では「**大気環境**」、「**日照阻害**」、「**動物・植物・生態系**」、「**廃棄物等・温室効果ガス等**」を対象とします。

影響要因の区分 環境要素の区分			工事の実施						土地又は工作物の存在及び供用				事業特性・地域特性を踏まえた項目選定の理由
			建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	切土工等又は既存の工作物の除去	工事施工ヤードの設置	工事用道路等の設置	掘削工事、トンネル工事の実施	道路(地表式)の存在	道路(高上式)の存在	道路(地下式)の存在	自動車の走行	
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	大気環境	大気質	二酸化窒素浮遊粒子状物質	●	●							○	住居等が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用（自動車の走行）に係る二酸化窒素及び浮遊粒子状物質による影響が考えられます。
			粉じん等	○	○								住居等が存在するため、工事の実施に係る粉じん等による影響が考えられます。
		騒音	騒音	○	○							○	住居等が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る騒音による影響が考えられます。
		振動	振動	○	○							○	住居等が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る振動による影響が考えられます。
		低周波音	低周波音									●	住居等が存在し、かつその周辺の対象道路のうち一部の区間について高上式（橋もしくは高架構造）で計画しているため、土地又は工作物の存在及び供用に係る低周波音による影響が考えられます。
	水環境	水質	水の濁り			●							公共用水域が存在するため、工事の実施に係る水質（水の濁り）への影響が考えられます。
		地下水の水位	地下水の水位					■	■		■		住居等が存在し、かつその周辺の対象道路のうち一部の区間について地表式、地下式で計画しているため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る地下水の水位に対する影響が考えられます。
		河川	河川の変化					■	■		■		住居等が存在し、かつその周辺の対象道路のうち一部の区間について地表式、地下式で計画しているため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る河川の変化に対する影響が考えられます。
	土壌に係る環境 その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質				○		○				重要な地形及び地質が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る重要な地形及び地質への影響が考えられます。
		地盤	地盤沈下					●	●		●		住居等及び軟弱地盤帯等が存在し、かつ対象道路のうち一部の区間について地表式、地下式で計画しているため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る地盤沈下による影響が考えられます。
		その他の環境要素	日照阻害							○			住居等が存在し、かつ対象道路のうち一部の区間について高上式（橋もしくは高架構造）で計画しているため、土地又は工作物の存在及び供用に係る日照阻害の影響が考えられます。

注 1）表中の“○”印は国土交通省令に示されている参考項目、“●”印は国土交通省令に示されている参考項目以外の項目、“■”印は愛知県環境影響評価指針または計画段階環境配慮書に対する国土交通大臣意見に示されている項目、“太枠”印は計画段階環境配慮書で選定された計画段階環境配慮事項に準ずる項目を示す。

影響要因の区分 環境要素の区分			工事の実施					土地又は工作物の存在及び供用				事業特性・地域特性を踏まえた項目選定の理由
			建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	切土工等又は既存の工作物の除去	工事施工ヤードの設置	工事用道路等の設置	掘削工事、トンネル工事の実施	道路（地表式）の存在	道路（高上式）の存在	道路（地下式）の存在	
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	動物	重要な種及び注目すべき生息地	●				○	●	○	●		重要な種の生息環境が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る動物（重要な種）への影響が考えられます。
	植物	重要な種及び群落					○	●	○	●		重要な種の生育環境が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る植物（重要な種）への影響が考えられます。
	生態系	地域を特徴づける生態系	●				○	●	○	●		地域を特徴づける生態系を構成する動物・植物の生息・生育基盤が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る生態系（地域を特徴づける生態系）への影響が考えられます。
人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観					●		○			主要な眺望点及び景観資源が存在し、なおかつ県立自然公園を通過するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る主要な眺望景観への影響が考えられます。
	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場					●		○		●	主要な人と自然との触れ合いの活動の場が存在し、なおかつ県立自然公園を通過するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響が考えられます。
	地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況（文化財）						■		■			文化財保護条例等に基づく指定文化財及び埋蔵文化財が存在するため、工事の実施に係る文化財への影響が考えられます。また、土地又は工作物の存在及び供用に係る日照阻害、地下水の変化、排気ガスによる植物の天然記念物への影響が考えられます。（※植物の天然記念物：愛知県側の「お葉つきイチョウ」）
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素	廃棄物等	建設工事に伴う副産物			○							工事の実施に伴い発生する建設副産物を事業実施区域外へ搬出することを想定しているため、工事の実施に係る廃棄物等の影響が考えられます。
	温室効果ガス等（地球環境）	温室効果ガス等	■									工事の実施に伴い温室効果ガス等（二酸化炭素）が発生するため、工事の実施に係る温室効果ガス等の影響が考えられます。

注1）表中の“○”印は国土交通省令に示されている参考項目、“●”印は国土交通省令に示されている参考項目以外の項目、“■”印は愛知県環境影響評価指針または計画段階環境配慮書に対する国土交通大臣意見に示されている項目、“太枠”印は計画段階環境配慮書で選定された計画段階環境配慮事項に準ずる項目を示す。

注2）「地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況」は愛知県環境影響評価指針に示されている項目。

○調査、予測及び評価の手法は、**国土交通省令に基づき、道路環境影響評価の技術手法（平成24・令和2年度版）**に示される手法、**及び愛知県の環境影響評価指針**に示される手法を参考として、事業特性及び地域特性を踏まえて選定しました。

○騒音の予測モデルを最新版（ASJ RTN-Model 2023）とした以外には、**方法書から手法の大きな変更はありません。**

環境要素の区分			調査の手法	予測の手法
大気環境	大気質	二酸化窒素・浮遊粒子状物質	既存資料調査、現地調査	ブルーム式及びパフ式を用いた予測
		粉じん等	既存資料調査、現地調査	事例の引用又は解析により得られた経験式を用いた予測
	騒音	騒音	既存資料調査、現地調査	音の伝搬理論に基づく予測式を用いた予測
	振動	振動	既存資料調査、現地調査	事例の引用又は解析により得られた振動の伝搬理論に基づく予測式および80%レンジの上端値を予測するための式を用いた予測
	低周波音	低周波音	現地調査	既存の調査結果より導かれた予測式を用いた予測
水環境	水質	水の濁り	既存資料調査、現地調査	類似事例を用いて推定もしくは計算による予測
	地下水の水位	地下水の水位		事例の引用又は理論的解析による予測
	河川	河川の変化		事例の引用又は理論的解析による予測
土壌に係る環境	地形及び地質	重要な地形及び地質		土地の改変範囲と重要な地形及び地質の分布範囲を重ね合わせることによる予測
その他の環境	地盤	地盤沈下（愛知側のみ）		理論モデルによる計算又は数値シミュレーションを用いた予測
その他の環境要素		日照障害	既存資料調査、現地調査	日影図の作成による予測
動物	重要な種及び注目すべき生息地			科学的知見や類似事例を参考とした予測
植物	重要な種及び群落			
生態系	地域を特徴づける生態系			
景観		主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	既存資料調査、現地調査	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観と事業実施区域との重ね合わせフォトモンタージュ法等の視覚的な表現方法による予測
人と自然との触れ合いの活動の場		主要な人と自然との触れ合いの活動の場		主要な人と自然との触れ合いの活動の場及び自然資源と事業実施区域の重ね合わせによる予測
地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況（文化財）				地域の歴史的文化的特性を生かした環境（文化財）と事業実施区域の重ね合わせによる予測
廃棄物等	建設工事に伴う副産物		－	事業特性及び地域特性の情報を基にした予測
温室効果ガス等	温室効果ガス等		－	工事実施に伴い発生する温室効果ガスの発生状況を予測

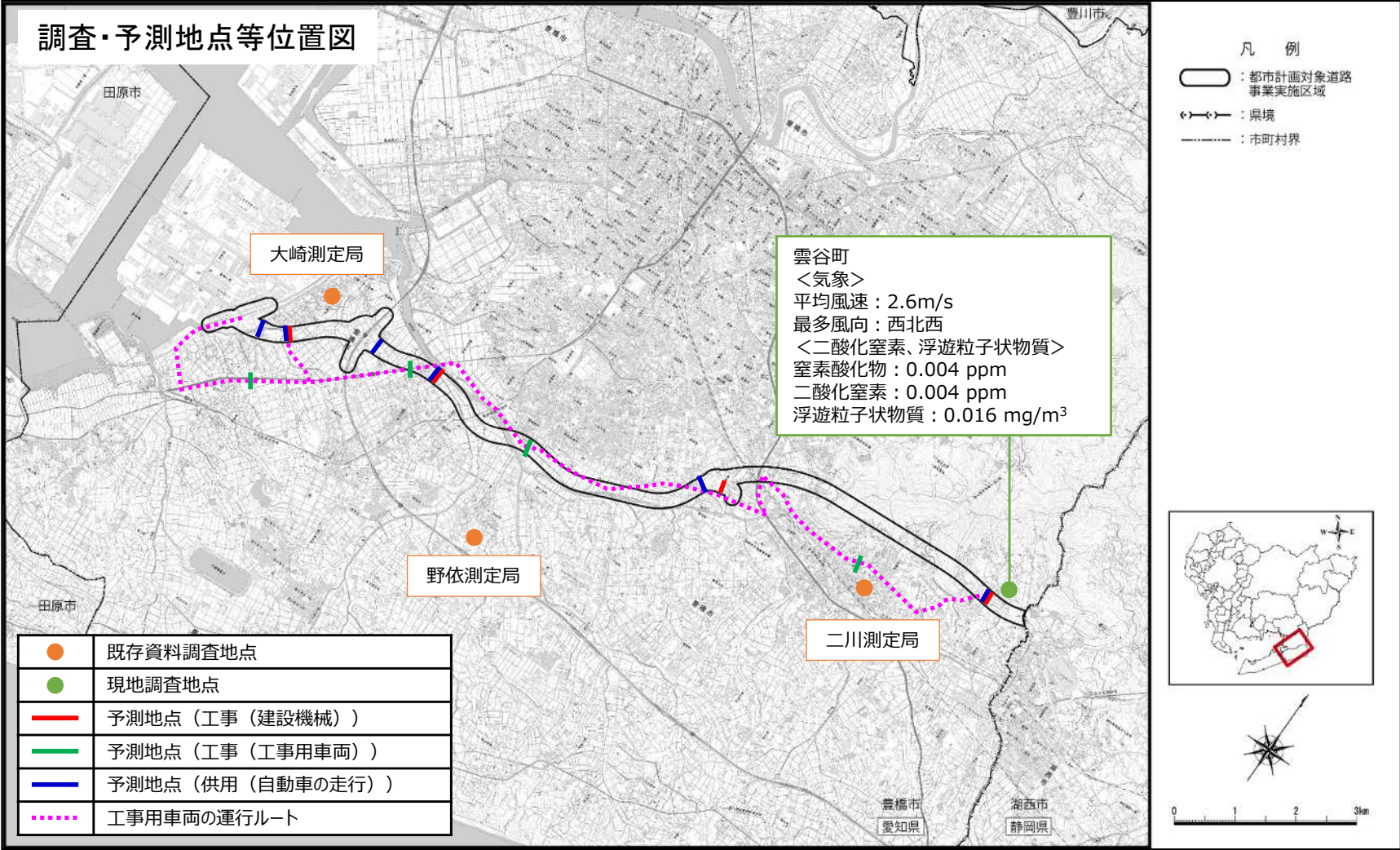
評価の手法

- ①事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減、若しくは環境保全への配慮がなされているかについて
見解を明らかにする
- ②法的な基準に適合しているか検討（※法令で評価基準又は目標が示されている場合）

■ 調査結果

・ 現地調査地点の大気質及び気象の状況は、最寄りの既存測定局と相関性が高いことを確認しました。

環境要素の区分	調査した情報	調査手法
二酸化窒素・浮遊粒子状物質	○大気質の状況 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	既存資料調査 及び現地調査
粉じん等	○気象の状況 （風速、風向、日射量） ○その他 （交通量、走行速度等）	



■ 予測及び評価結果

- 工事中（建設機械の稼働）に係る大気質、粉じん
- ・大気質はすべての予測地点で無対策で環境基準との整合が図られることから、環境保全措置は実施しません。
- ・粉じんは一部の予測地点で無対策では参考値（10t/km²/月）を超過しますが、環境保全措置（散水）の実施により、すべての地点で同基準との整合が図られます。
- 工事中（工事用車両の運行）に係る大気質、粉じん
- ・すべての予測地点で無対策で環境基準及び参考値との整合が図られることから、環境保全措置は実施しません。
- 供用後に係る大気質
- ・すべての予測地点で無対策で環境基準との整合が図られることから、環境保全措置は実施しません。

環境要素の 区分	影響要因の区分	予 測				環境保全措置	評価
		予測の手法	予測の結果※1		整合を図るべき基準 又は参考値		
二酸化窒素	工事（建設機械）	拡散式を 用いた予測	○	0.016 ～0.022 ppm	【環境基準】 1時間の1日平均値が 0.04ppm～0.06ppmの ゾーン内又はそれ以下	—	○
	工事（工事用車両）		○	0.018 ～0.022 ppm		—	○
	供用（自動車の走行）		○	0.0151～0.0219ppm		—	○
浮遊 粒子状物質	工事（建設機械）		○	0.0329～0.0412mg/m ³	1時間値の1日平均値が 0.10mg/m ³ 以下 であること。	—	○
	工事（工事用車両）		○	0.033 ～0.039 mg/m ³		—	○
	供用（自動車の走行）		○	0.0327～0.0411mg/m ³		—	○
粉じん等	工事（建設機械）	事例の引用 又は解析により 得られた経験式 を用いた予測	×	0.2 ～17.0 t/km ² /月	【参考値※】 (10t/km ² /月)	散水	○
	工事（工事用車両）		○	0.1 ～ 5.6 t/km ² /月		—	○

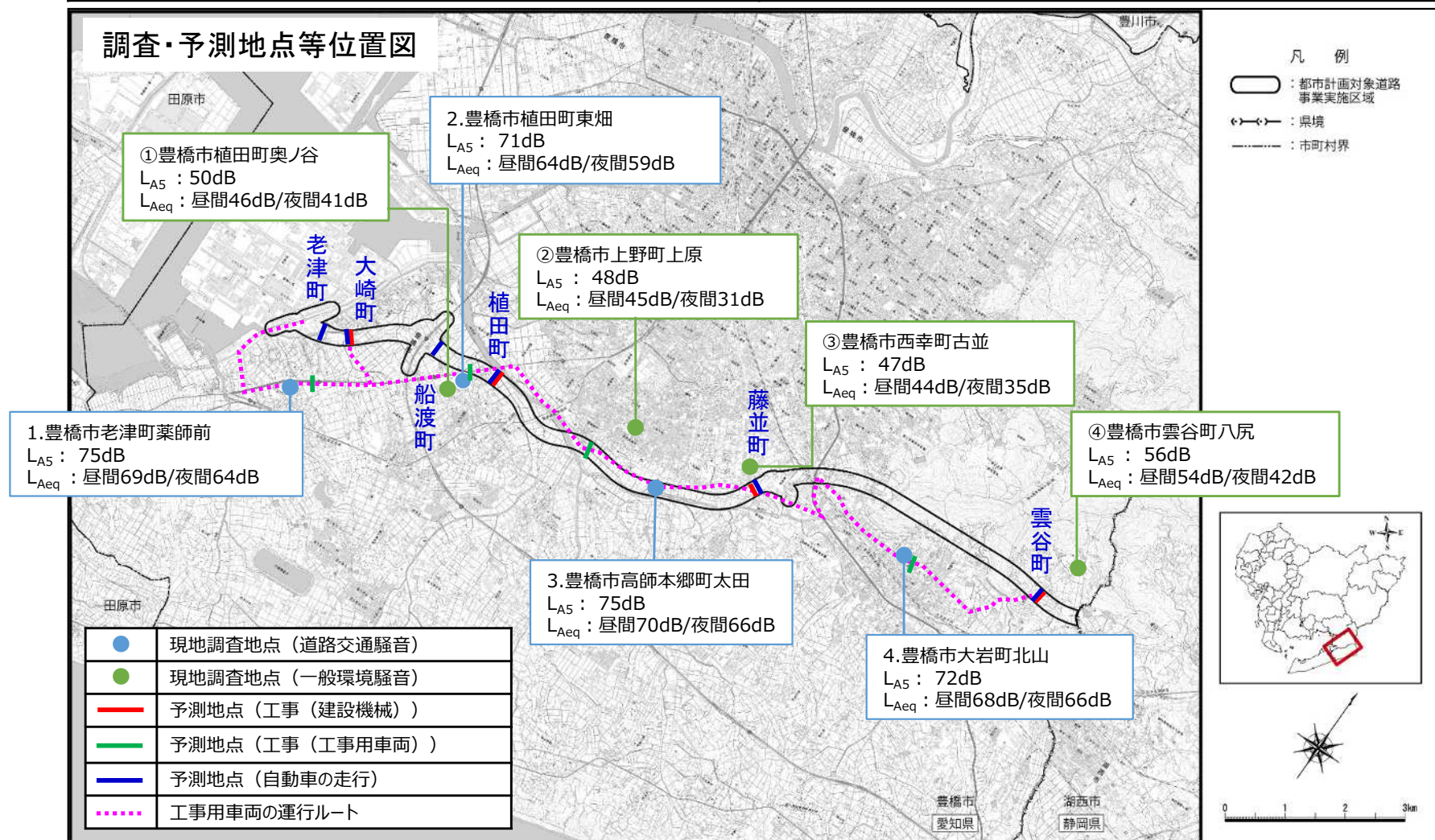
※1：全地点における予測結果の最小値～最大値を示す

※2：参考値：スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標を参考とした目安20t/km²/月※1「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成2年7月、環大自第84号）から、降下ばいじん量の比較的高い地域の値である 10t/km²/月を差し引いて設定された値

■ 調査結果

- 一般環境騒音は昼間 44～54dB、夜間 31～42dB、道路交通騒音は昼間 64～70dB、夜間 64～66dBでした。

調査した情報	調査手法
○騒音の状況 (騒音レベル (L_{A5} 又は $L_{A,Fmax,5}$, L_{Aeq})) ○その他 (交通量、走行速度、舗装の種類、地表面の種類等)	現地調査



■ 予測及び評価結果

- 工事中（建設機械の稼働）に係る騒音
- ・一部の予測地点（植田町、藤並町）で無対策では規制基準（85 dB）を超過しますが、環境保全措置（防音シートなどの遮音対策）の実施により、すべての地点で同基準との整合が図られます。
- 工事中（工事用車両の運行）に係る騒音
- ・すべての予測地点で無対策で環境基準（70 dB）との整合が図られることから、環境保全措置は実施しません。
- 供用後に係る騒音
- ・すべての予測地点で無対策で環境基準（70 dB）との整合が図られることから、環境保全措置は実施しません。

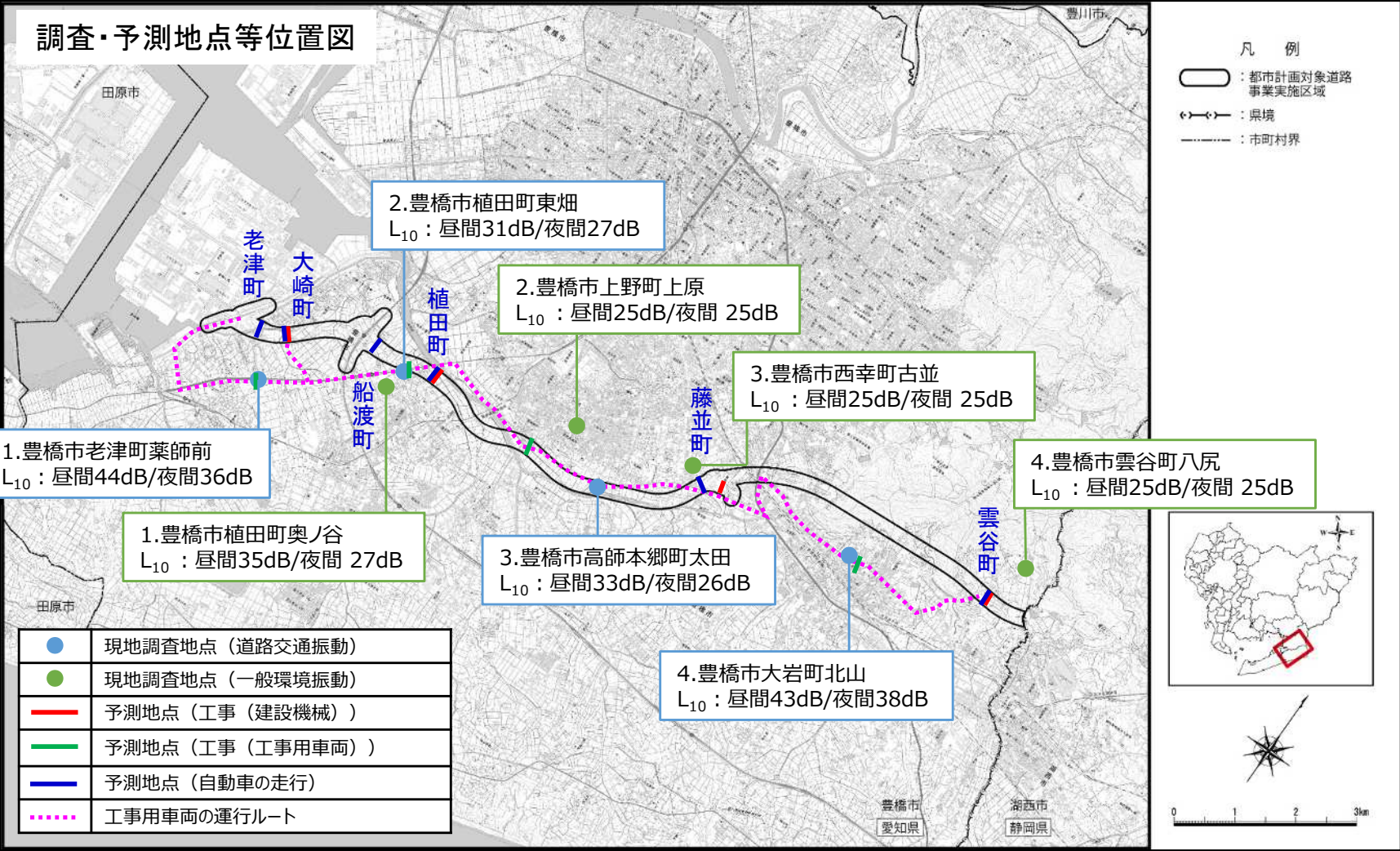
影響要因 の区分	予 測				環境保全措置		評価
	予測の手法	予測の結果※		整合を図るべき基準	環境保全措置	環境保全措置の 騒音レベル	
工事 (建設機械)	音の伝搬理論に 基づく予測式を 用いた予測	×	<L _{A5} 又はL _{A,Fmax,5} > 76dB~92dB	【規制基準】 85dB	防音シート等の 遮音対策	<L _{A5} 又はL _{A,Fmax,5} > 76dB~83dB	○
工事 (工事用車両)		○	<L _{Aeq} > 64dB~70dB	【環境基準】 70dB	—	—	○
供用 (自動車の走行)		○	<L _{Aeq} > ■ 近接空間 昼間 56~68dB 夜間 50~62dB ■ 背後地 昼間 52~63dB 夜間 46~57dB	【環境基準】 ■ 近接空間 昼間 70dB 夜間 65dB ■ 背後地 昼間 65dB 夜間 60dB	—	—	○

※：全地点における予測結果の最小値～最大値を示す

■ 調査結果

・ 一般環境振動は昼間 25～35dB、夜間 25～27dB、道路交通振動は昼間 31～44dB、夜間 26～38dBでした。

調査した情報	調査手法
○振動の状況 （振動レベル（L ₁₀ ）） ○その他 （地盤種別、交通量、走行速度、地盤卓越振動数）	既存資料調査 及び現地調査



■ 予測及び評価結果

■ 工事中（建設機械の稼働）に係る振動

・すべての予測地点で無対策で規制基準（75 dB）との整合が図られることから、環境保全措置は実施しません。

■ 工事中（工事用車両の運行）に係る振動

・すべての予測地点で無対策で要請限度（65dBもしくは70dB）との整合が図られることから、環境保全措置は実施しません。

■ 供用後に係る振動

・すべての予測地点で無対策で要請限度（昼間70dB夜間65dB）との整合が図られることから、環境保全措置は実施しません。

影響要因 の区分	予 測			環境保全措置	評価
	予測の手法	予測結果※	整合を図るべき基準		
工事 （建設機械）	事例の引用又は 解析により得られた 振動の伝搬理論式に 基づく予測	<L ₁₀ > 45dB～63dB	【規制基準】 75dB	—	○
工事 （工事用車両）		<L ₁₀ > 34dB～47dB	【要請限度】 65dBもしくは70dB	—	○
供用 （自動車の走行）		<L ₁₀ > 昼間40dB～47dB 夜間39dB～46dB	【要請限度】 昼間70dB 夜間65dB	—	○

※：全地点における予測結果の最小値～最大値を示す

- 調査、予測及び評価結果
- 予測の結果、無対策で参考となる値（ L_{50} ：90 dB、 L_{G5} ：100 dB）との整合が図られることから、環境保全措置は実施しません。

調査した情報	調査手法	影響要因 の区分	予 測			環境保全 措置	評 価
			予測の手法	予測結果	整合を図るべき基準 又は参考値		
○その他 (住居等の位置)	現地調査	供用 (自動車の走行)	既存の調査結果より 導かれた予測式を 用いた予測	$<L_{50}> 73\text{dB}$ $<L_{G5}> 81\text{dB}$	【参考となる値※】 $<L_{50}> 90\text{dB}$ $<L_{G5}> 100\text{dB}$	—	○

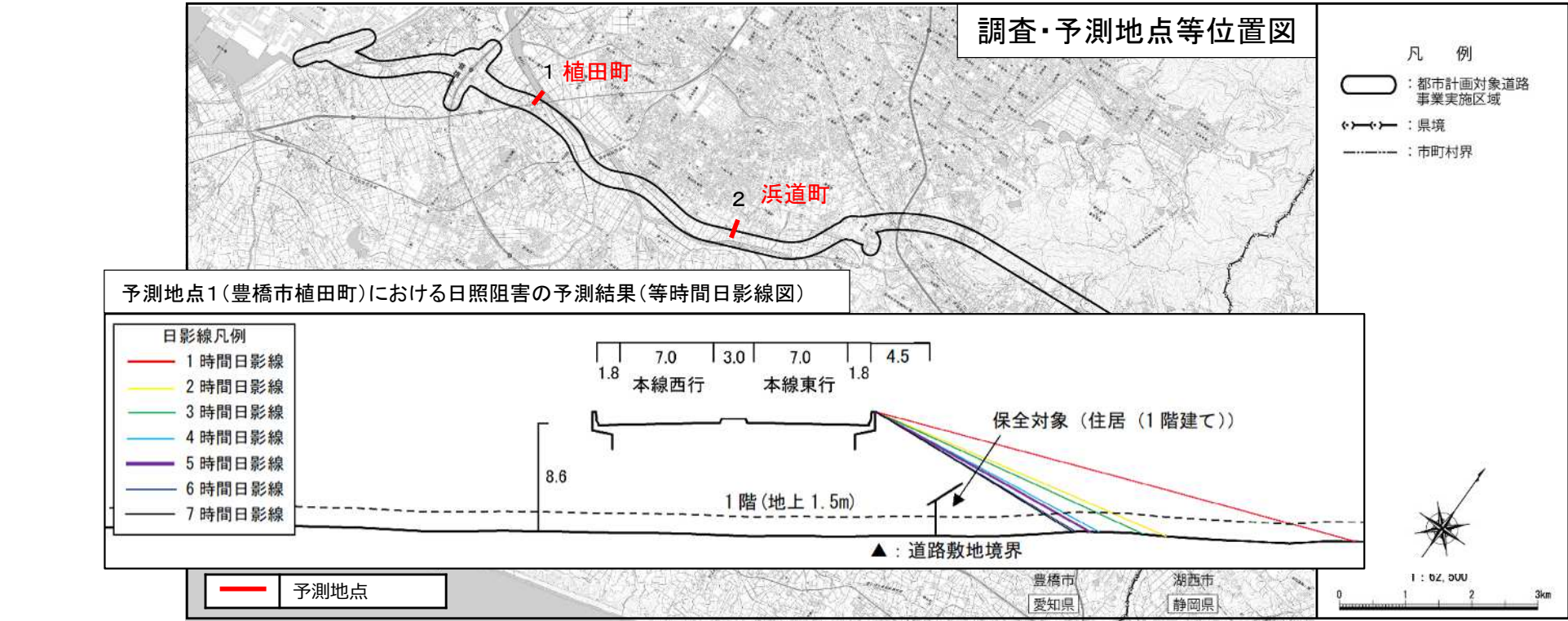


■ 調査、予測及び評価結果

- 予測の結果、植田町において4時間以上の日影になると予測されることから、環境保全措置として「高架構造物の上下部工の形式・配置等の工夫」を実施することしました。

調査した情報	調査手法	調査結果	影響要因 の区分	予 測			環境保全措置	評価
				予測の 手法	予測結果	参考となる値		
					存在			
○土地利用の状況 （住居等の立地状況） ○地形の状況 （住居の立地する 土地の高さや傾斜等）	既存資料調査 及び現地調査	住居等が対象道路（嵩上式）沿道に立地。 著しい日影の影響を及ぼす 地形は存在しない。	道路の 存在	日影図の 作成による 予測	× 高架構造物設置後の 日影時間は3時間未 満から 4時間以上	【参考指標※】 4時間以下	・高架構造物の 上下部工の形式・ 配置 等の工夫	○

※参考となる値:「公共施設の設置に起因する日陰により生ずる損害等に係る費用負担について」(昭和51年建設省計用発第4号)に示されている、第1種低層住居専用地域等における日陰時間



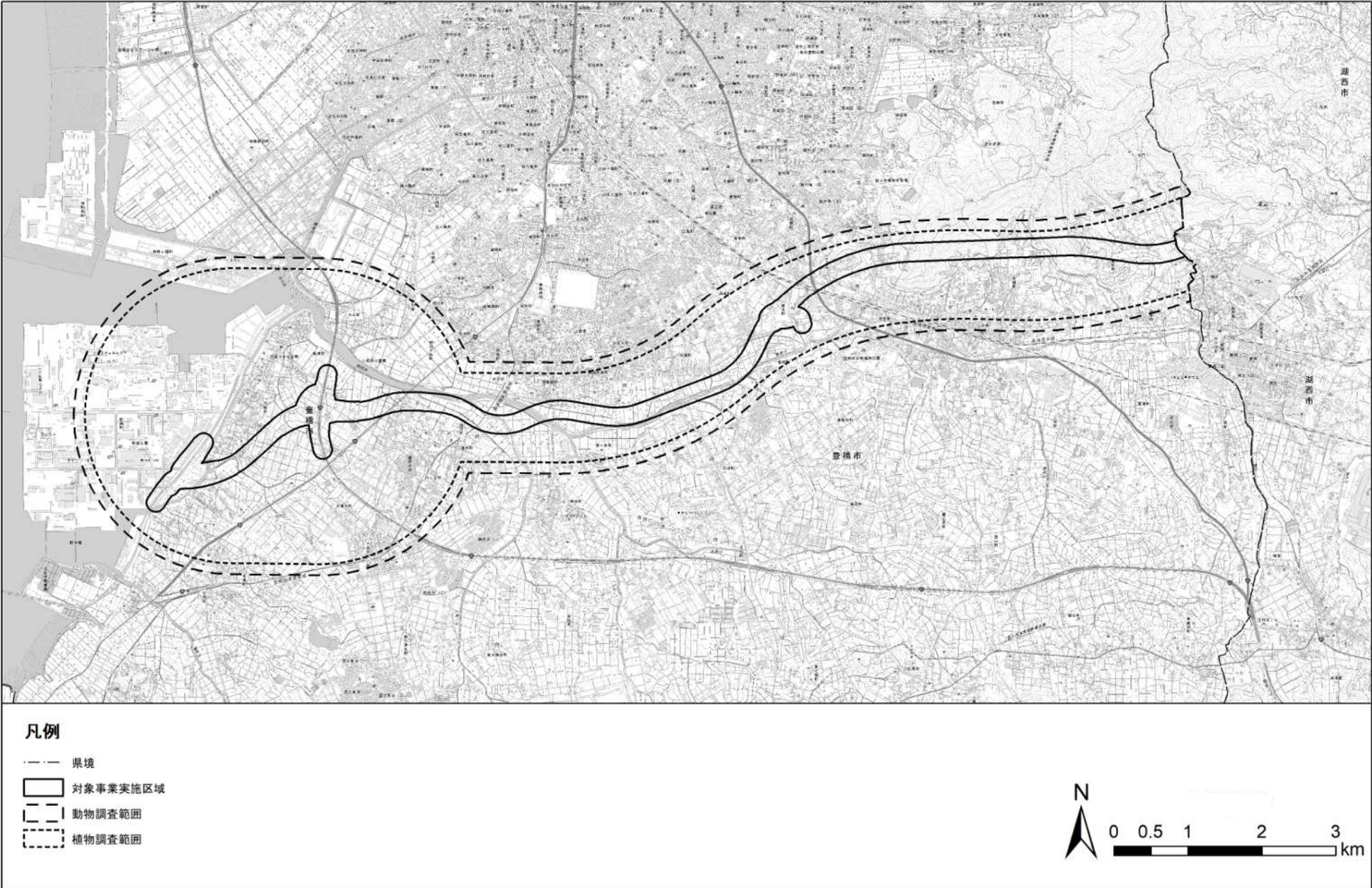
■ 調査結果

・現地調査により実施区域及びその周辺で、重要な動物（123種）、重要な植物（25種）、生態系の注目種を確認しました。

環境要素の 区分	動物 (重要な種及び注目すべき生息地)	調査結果	<p><重要な種></p> <p>哺乳類：8種（キクガシラコウモリ、カヤネズミ等）、</p> <p>鳥類：30種（チュウサギ、ケリ、ホオアカ等）</p> <p>両生類：6種（トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル等）、</p> <p>爬虫類：7種（ニホンイシガメ等）</p> <p>魚類：12種（ビリンゴ、イドミズハゼ、カワヨシノボリ、等）</p> <p>底生動物類：37種（マルタニシ、ヒラマキミズマイマイ等）</p> <p>昆虫類：12種（マイコアカネ、オオゴキブリ等）</p> <p>陸産貝類：10種（ナガオカモノアラガイ、ミカワギセル等）</p> <p>クモ類：6種（オニグモ、コガネグモ等）</p>
調査した 情報	○動物相の状況 ○重要な種等の状況		
調査の 手法	既存資料調査 及び現地調査		
環境要素の 区分	植物 (重要な種及び群落)	調査結果	<p><重要な種></p> <p>植物：25種（スズメノハコベ、カワヂシャ、ウラギク、イワタカンアオイ、ミカワバイケイソウ等）</p> <p><巨樹・巨木林></p> <p>巨樹・巨木林：1件（大崎イチョウ）</p> <p><文化財指定されている樹木等（天然記念物）></p> <p>天然記念物：1件（お葉つきイチョウ）</p>
調査した 情報	○植物相及び植生の状況 ○重要な種及び群落の状況		
調査の 手法	既存資料調査及び現地調査		
環境要素の 区分	生態系 (地域を特徴づける 生態系)	調査結果	<p><山地－樹林主体の生態系の注目種></p> <p><u>上位性</u>：キツネ、オオタカ</p> <p><u>典型性</u>：アカネズミ、タヌキ、カラ類、ホオジロ、モンキアゲハ、ノコギリクワガタ等</p> <p><u>特殊性</u>：ヒメタイコウチ</p> <p><台地－農耕地の生態系の注目種></p> <p><u>上位性</u>：キツネ、オオタカ、サギ類</p> <p><u>典型性</u>：タヌキ、カラ類、ホオジロ、ニホンアマガエル、オイカワ、イチモンジセセリ等</p> <p><u>特殊性</u>：ヒメタイコウチ</p> <p><台地・低地－市街地の生態系の注目種></p> <p><u>上位性</u>：オオタカ</p> <p><u>典型性</u>：タヌキ、ホオジロ、ニホンカナヘビ、イチモンジセセリ、モンキアゲハ等</p> <p><低地－干潟・干拓地の生態系の注目種></p> <p><u>上位性</u>：キツネ、サギ類</p> <p><u>典型性</u>：タヌキ、ニホンアマガエル、マハゼ、シオカラトンボ、アゲハ等</p> <p><u>特殊性</u>：イカルチドリ、シギ類、シバナ、アイアシ</p>
調査した 情報	○自然環境に係る概況 ○注目種・群集の状況		
調査の 手法	既存資料調査 及び現地調査		

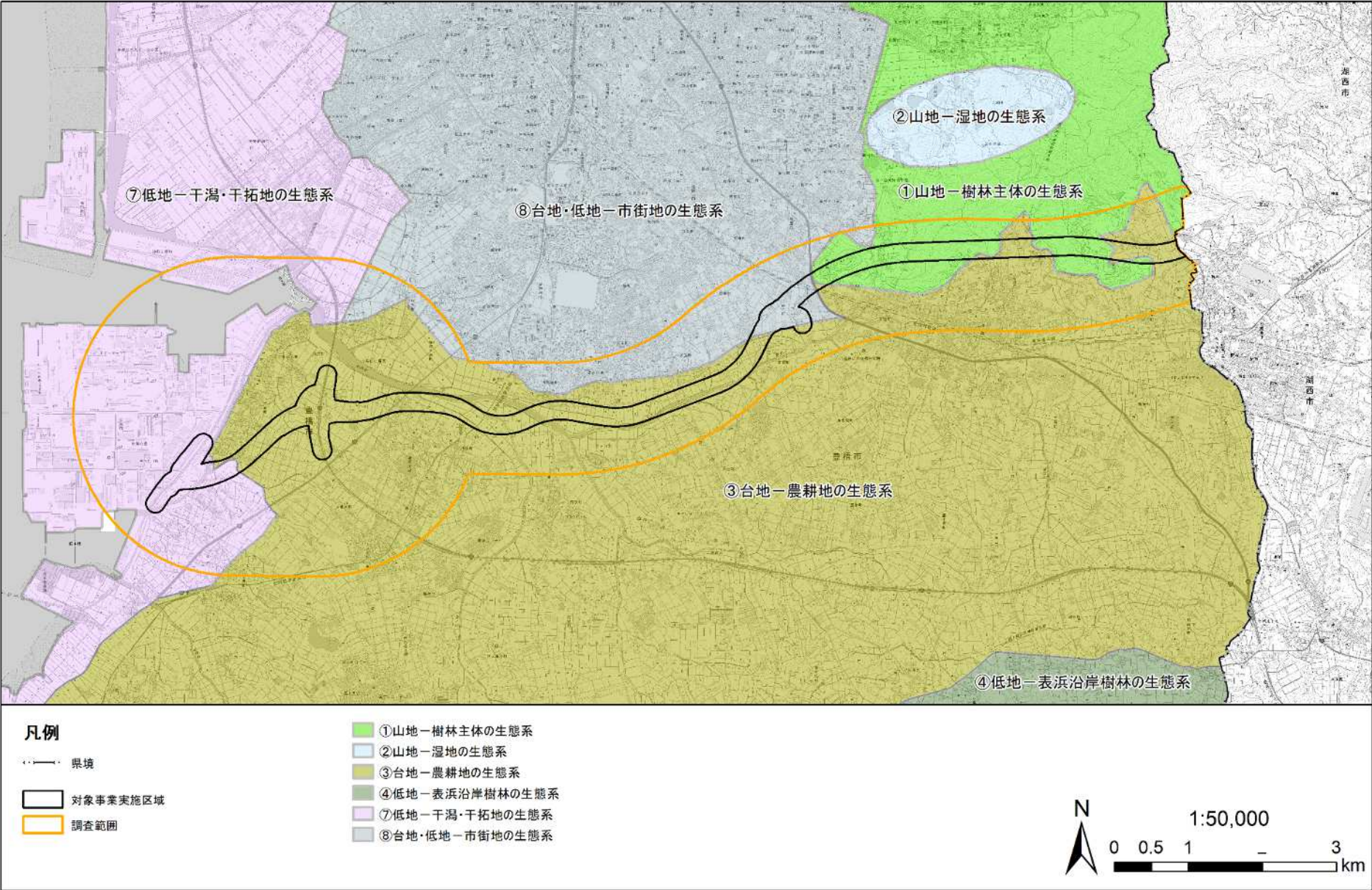
■ 調査結果（調査範囲）

・調査範囲は、動物・植物群落・生態系では方法書の実施区域とその周囲250mの範囲、植物では100mの範囲としました。



■ 調査結果 (生態系区分)

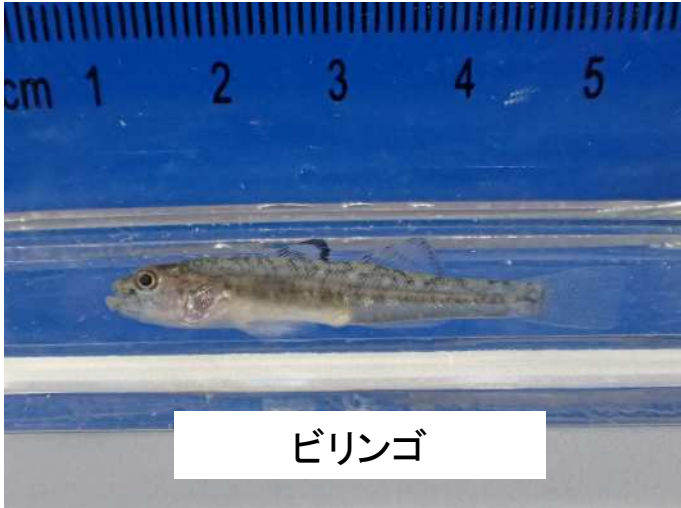
・生態系区分は、「山地－樹林主体の生態系」、「台地－農耕地の生態系」、「台地・低地－市街地の生態系」、「低地－干潟・干拓地の生態系」の4区分としました。



■ 予測及び評価結果（動物）

- ・ 予測対象種は、現地調査により実施区域及びその周辺で生息が確認された重要な種（哺乳類8種、鳥類30種、両生類6種、爬虫類7種、魚類12種、底生動物類37種、昆虫類12種、陸産貝類10種、クモ類6種）を選定しました。
- ・ 予測の結果、重要な種は、事業による生息環境への影響がない又は極めて小さいと予測されることから、環境保全措置は実施しません。

環境要素の区分	影響要因の区分	予 測		環境保全措置	評 価
		予測の手法	予測結果		
動物 (重要な種及び 注目すべき生息地)	工事の実施、 存在及び供用	科学的知見等を 参考とした予測	・建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事 用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実 施及び道路（地表式、嵩上式及び地下式）の 存在に係る動物に関する影響はない又は極めて 小さい。	—	○



■ 予測及び評価結果 (植物)

- ・予測対象種は、現地調査により実施区域及びその周辺で生育が確認された重要な種（25種）を選定しました。
- ・予測の結果、重要な種は、事業による生育環境への影響がない又は極めて小さいと予測されることから、環境保全措置は実施しません。

環境要素の区分	影響要因の区分	予 測		環境保全措置	評 価
		予測の手法	予測結果		
植物 (重要な種及び群落)	工事の実施、 存在及び供用	科学的知見等を 参考とした予測	・工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、掘削工事、トンネル工事の実施及び道路（地表式、嵩上式及び地下式）の存在に係る植物に関する影響はない又は極めて小さいと予測される。	—	○



■ 予測及び評価結果（生態系）

・予測の結果、地域を特徴づける生態系（「山地－樹林主体の生態系」、「台地－農耕地の生態系」、「台地・低地－市街地の生態系」、「低地－干潟・干拓地の生態系」）は、いずれの生態系区分も事業による影響が極めて小さいと予測されることから、環境保全措置は実施しません。

環境要素の 区分	影響要因の 区分	予測			環境保全措置	評価
		予測の手法	予測結果			
			工事	存在・供用		
生態系 （地域を特徴 づける生態系）	工事の実施、 存在及び供用	科学的知見や類 似事例を参考と した予測	○	○	－	○
			・いずれの生態系区分においても食物連鎖及び共生の関係は維持され、注目種・ 群集の生息・生育基盤への影響は極めて小さいと考えられることから、工事の実 施及び道路の存在・供用による各生態系への影響は極めて小さいと予測される。			



■ 廃棄物の予測及び評価結果

- 予測の結果、建設発生土475.6千m³等の廃棄物を区域外搬出すると予測されることから、環境保全措置として「工事間流用の促進」「再資源化施設への搬入等による他事業等での利用」を実施することとしました。

影響要因 の区分	影響要因 の区分	予 測		環境保全措置	評 価
		予測の手法	予測結果		
廃棄物等	工事の 実施	事業特性及び 地域特性の情報を 基にした予測	<発生量> 建設発生土：1,916.2千m ³ 発生 建設汚泥：5.1千m ³ 発生 コンクリート塊：0.5千m ³ 発生 アスファルト・コンクリート塊：1.9千m ³ 発生 <事業実施区域内再利用量> 建設発生土：1,440.6千m ³ 再利用 <区域外搬出> 建設発生土：475.6千m ³ 建設汚泥、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート 塊については、発生量の全量を区域外搬出する。	・工事間流用の促進 ・再資源化施設への搬入等 による他事業等での利用	○

■ 温室効果ガス等の予測及び評価結果

- 予測の結果、工事期間において、約42,991tCO₂が発生すると予測されることから、環境保全措置として「作業者に対する建設機械の省エネ運転の指導」「作業者に対する工事用車両のエコドライブの指導」を実施することとしました。

影響要因 の区分	影響要因 の区分	予 測		環境保全措置	評 価
		予測の手法	予測結果		
温室効果 ガス等	工事の 実施	工事実施に伴い発生する 温室効果ガスの 発生状況の把握	工事期間において、約42,991tCO ₂ が発生	・作業者に対する建設機械の 省エネ運転の指導 ・作業者に対する工事用車両 のエコドライブの指導	○

■環境影響評価の結果（1 / 2）

■大気質～日照障害

・建設機械の稼働に係る粉じん等、建設機械の稼働に係る騒音、日照障害では、環境影響があると予測され、環境保全措置を検討しました。

環境要素の区分		影響要因の区分	予測結果		環境保全措置	評価結果	事後調査
			工事	存在・供用			
大気質	二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	工事(建設機械)	○	—	—	○	実施しない
		工事(工事用車両)	○	—	—	○	実施しない
		供用（自動車の走行）	—	○	—	○	実施しない
	粉じん等	工事(建設機械)	×	—	散水	○	実施しない
		工事(工事用車両)	○	—	—	○	実施しない
騒音		工事(建設機械)	×	—	防音シートなどの遮音対策（防音シート又は防音パネルの設置）	○	実施しない
		工事(工事用車両)	○	—	—	○	実施しない
		供用（自動車の走行）	—	○	—	○	実施しない
振動		工事(建設機械)	○	—	—	○	実施しない
		工事(工事用車両)	○	—	—	○	実施しない
		供用（自動車の走行）	—	○	—	○	実施しない
低周波音	低周波音	供用（自動車の走行）	—	○	—	○	実施しない
水質	水の濁り	工事	○	—	—	○	実施しない
地下水の水位		工事／供用	※		観測修正法による 最適な工法の採用	○	実施する
河川	河川の変化	工事／供用	※		観測修正法による 最適な工法の採用	○	実施する
地形及び地質	重要な地形及び地質	工事／供用	○		—	○	実施しない
地盤	軟弱地盤層の状況	工事／供用	※		観測修正法による 最適な工法の採用	○	実施する
その他の環境要素	日照障害	存在	—	×	高架構造物の上下部工の形式・配置等の工夫	○	実施しない

(凡 例)

予測結果 ○:影響がない又は極めて小さい ×:影響あり(基準超過など) ※:環境基準などが存在しないため、予測結果の数値のみ掲載

評価結果 ○:環境の保全についての配慮が適正

■環境影響評価の結果（2 / 2）

■動物～温室効果ガス等

・廃棄物等、温室効果ガス等では、環境影響があると予測され、環境保全措置を検討しました。

環境要素の区分		影響要因 の区分	予測結果		環境保全措置	評価 結果	事後調査
			工事	存在			
動物		工事/存在	○	—	—	○	実施しない
植物		工事/存在	○	—	—	○	実施しない
生態系		工事/存在	○	—	—	○	実施しない
景観	主要な眺望点 及び景観資源 並びに主要な眺望景観	工事/存在	○	—	—	○	実施しない
人と自然との触れ 合いの活動の場	主要な人と自然との 触れ合いの活動の場	工事/存在	○	—	—	○	実施しない
地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況		工事	×	—	文化財保護法に基づく適切な措置	○	実施しない
		存在	○	—	—		
廃棄物等	建設工事に伴う副産物	工事	※	—	・工事間流用の促進 ・再資源化施設への搬入等による他事業等 での利用	○	実施しない
温室効果ガス等		工事	※	—	・作業者に対する建設機械の省エネ運転の指導 ・作業者に対する工事用車両のエコドライブの指導	○	実施しない

(凡 例)

予測結果 ○:影響がない又は極めて小さい ×:影響あり(基準超過など)

評価結果 ○:環境の保全についての配慮が適正

※:環境基準などが存在しないため、予測結果の数値のみ掲載

○次回専門部会（第5回）での審議予定内容は、「水環境」、「地形及び地質」、「地盤」、「景観」、「人と自然との触れ合いの活動の場」、「地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況」となります。

環境要素の区分			調査の手法	予測の手法
大気環境	大気質	二酸化窒素・浮遊粒子状物質	既存資料調査、現地調査	ブルーム式及びパフ式を用いた予測
		粉じん等	既存資料調査、現地調査	事例の引用又は解析により得られた経験式を用いた予測
	騒音	騒音	既存資料調査、現地調査	音の伝搬理論に基づく予測式を用いた予測
	振動	振動	既存資料調査、現地調査	事例の引用又は解析により得られた振動の伝搬理論に基づく予測式および80%レンジの上端値を予測するための式を用いた予測
	低周波音	低周波音	現地調査	既存の調査結果より導かれた予測式を用いた予測
水環境	水質	水の濁り	既存資料調査、現地調査	類似事例を用いて推定もしくは計算による予測
	地下水の水位	地下水の水位		事例の引用又は理論的解析による予測
	河川	河川の変化		事例の引用又は理論的解析による予測
土壌に係る環境	地形及び地質	重要な地形及び地質		土地の改変範囲と重要な地形及び地質の分布範囲を重ね合わせることによる予測
その他の環境	地盤	地盤沈下（愛知側のみ）		理論モデルによる計算又は数値シミュレーションを用いた予測
その他の環境要素		日照障害	既存資料調査、現地調査	日影図の作成による予測
動物		重要な種及び注目すべき生息地		科学的知見や類似事例を参考とした予測
植物		重要な種及び群落		
生態系		地域を特徴づける生態系		
景観		主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	既存資料調査、現地調査	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観と事業実施区域との重ね合わせフォトモンタージュ法等の視覚的な表現方法による予測
人と自然との触れ合いの活動の場		主要な人と自然との触れ合いの活動の場		主要な人と自然との触れ合いの活動の場及び自然資源と事業実施区域の重ね合わせによる予測
地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況（文化財）				地域の歴史的文化的特性を生かした環境（文化財）と事業実施区域の重ね合わせによる予測
廃棄物等	建設工事に伴う副産物		－	事業特性及び地域特性の情報を基にした予測
温室効果ガス等	温室効果ガス等		－	工事実施に伴い発生する温室効果ガスの発生状況を予測